

学校教育目標

ふるさとを愛し、こころ豊かに「いま」を生きる生徒の育成
～ 次世代を生きぬく生徒の資質・能力を伸ばす ～

めざす生徒像（校訓）

- ◇ 主体的に学び、個性や能力を伸ばす生徒（自主）
- ◇ 多様な価値観を認め、人権を尊重する生徒（共生）
- ◇ 失敗を恐れず、困難や逆境に立ち向かう生徒（挑戦）

重点目標

- 1 生徒の「居場所づくり」のため、内面的理解に基づく人権基盤の生徒指導の充実
- 2 生徒の「主体的な学び」を引き出すための授業づくりと学び方指導の工夫
- 3 生徒の実態把握と分析による、学習相談や学習支援のさらなる工夫・充実
- 4 教職員が健康で生徒に向き合える職場環境づくり

重点目標を具現化するための手立て

1 生徒の「居場所づくり」のため、

内面的理解に基づく人権基盤の生徒指導の充実

- ① 生徒との対話を重視し、内面的理解に努める。
- ② 生徒会活動を核として、生徒の自治意識を高め、互いに協働しあう集団づくりを進める。
- ③ 校内委員会の定期開催により、情報共有とともに指導のあり方を検討し、生徒や保護者への継続的計画的な対応を行う。
- ④ いじめアンケートや生活アンケートを定期的に実施し、集約・集計に基づいた教育相談を行う。
- ⑤ 情報安全教育を計画的に進める。

2 生徒の「主体的な学び」を引き出すための授業づくりと学び方指導の工夫

- ① 主体的な「個人思考」と対話的な「学び合い」を取り入れた授業実践を行う。
- ② 兵庫型学習システム等において、習熟度別を含む、生徒の実態に対応した授業づくりを進める。
- ③ 授業と学習環境のユニバーサルデザイン化を進める。
- ④ キャリア教育・アントレプレナーシップ教育の充実の観点で「探究」を意識した取組を進める。

3 生徒の実態把握と分析による、学習相談や学習支援のさらなる工夫・充実

- ① 「ひようごがんばりタイム」の継続実施とともに家庭学習の習慣化を図る。
- ② 授業におけるICTの効果的活用の工夫を進める。
- ③ 「デジらく採点システム」の活用を進め、指導と評価の一体化を図る。

4 教職員が健康で生徒に向き合える職場環境づくり

- ① ICT 機器を有効に活用し、学校業務の効率化および精選を図る。
- ② 定時退勤日の完全実施と勤務時間の適正化に努める。
- ③ 年間予定をもとに、余裕を持ったカリキュラム編成を行う。